

がんゲノム医療遺伝子パネル検査実践ガイド

角南 久仁子, 畑中 豊, 小山 隆文 編著

＜書評者＞ 織田 克利（東大大学院教授・統合ゲノム学）

この度、『がんゲノム医療遺伝子パネル検査実践ガイド』が発刊された。2種類のがん遺伝子パネル検査（OncoGuide™NCC オンコパネルと FoundationOne®CDx がんゲノムプロファイル）が2019年6月に保険収載され、専門性の高いがんゲノムの検査結果が実際の診療として提供されるようになった。しかしながら、必要な知識をあまねく理解することは容易でなく、身近な指南書が求められている。本書はがん遺伝子パネル検査の基礎知識がわかりやすく解説され、わが国におけるがんゲノム医療の運用の流れや検査結果の読み方についてもコンパクトに要領よくまとめられており、指南書としてふさわしい内容となっている。さらに、現在保険診療として行われているDNAパネルに加え、近未来の導入が期待されるものとして、RNAパネルを含むがん遺伝子パネル検査（Today OncoPanel）やリキッドバイオブシー（血中循環腫瘍由来DNAを解析する

検査技術）の解説までカバーされており、日進月歩の変化にも対応できるような構成になっている。

専門家会議（エキスパートパネル）の構成員の要件からわかるように、がんゲノム医療は、医師（各診療科の主治医のみならず、腫瘍内科、遺伝診療科、病理部、検査部など）、基礎研究者、遺伝カウンセラー、看護師、薬剤師、検査技師などのメディカルスタッフ、事務系職員をはじめ、多職種が知識を共有して力を合わせて実施していく必要があり、がん種横断的であるのみでなく職種横断的な側面も大きい。これまで「がんゲノム」は難解というイメージが強く、知識、経験、専門性が異なる医療スタッフ間であまねくバックグラウンドを共有することは至難であった。本書に目を通してもらうことで、さまざまな関係者間で、基礎知識や必要な情報を格段に共有しやすくなると期待される。またシーケンス解析に関わる細かな専門用語についても広くカ

バーされており、入門書としての位置付けのみでなく、がんゲノム医療の第一線で働く専門家にとっても知識の整理に有用であろう。初学者から専門家まで役立つ解説書となっており、ぜひ手に取って、日々のマニュアルとして活用いただければ幸いである。今後、他の疾患でもゲノム医療が普及していくと予想されることから、がん以外の領域で遺伝医療に携わっている方々にもお薦めしておきたい。

がんゲノム医療に関わる書籍は多数発行されているが、誰にとってもわかりやすく、すぐに役立つ解説書は少ない。学生教育や患者さんへの説明を含め、本書が広く活用され、わが国におけるがんゲノム医療の普及、発展に貢献することを願って止まない。

●A5 頁252 2020年5月

定価：本体4,200円＋税

[ISBN978-4-260-04246-8]

医学書院刊